山と海、美しい自然がいっぱいの久慈市
そんな久慈で、剣道具が作られています

べっぴんの湯

博物館新館

北限の海女

小袖漁港

久慈の海

新もぐらんぴあ

いちご煮

まめぶ汁

琥珀

剣道具が、どうやって作られているか
工場見学に来てみませんか。

メイド イン 久慈

総製造元
株式会社 七 星
〒028-0041 岩手県久慈市長内町32-18-2
TEL.0194-75-4417
ホームページ:https://iwate-nanahoshi.jimdo.com

●販売店

剣道具

Made in KUJI

DESIGNED BY TETSU

熟練の職人が生み出す武道具　最高級オーダーメイド仕様

デザインド by 鐵 が新たな躍進を目指します。

剣道防具の注文の９割はオーダーメイドであり、
一つひとつ大切なお客様の事を第一に考え造り込みます。
手仕事のため時間は要しますが、納期厳守。
熟練の職人によるしっかりとした仕上りは、
自信の表れでもあり誇りでもあります。
新たな生産体制を擁し、さらに躍進を続けるデザインド by 鐵は
これからも数多くのお客様からの厚い信頼に応えてまいります。

非売品

日本武道の胴着・袴や武道具には古来より気高い精神性が込められており、その形状や紋様にも深い意味付けがされております。

従来、武道具製作に関わる人々は、使い手の為に、最終製作者が個人の特性と道具の機能の極限を日本の美意識を含めて表現してきました。

戦後、武道人口が急増すると、ミシン等の機械化が進み、何処でも製造が可能となりました。より安価な製品造りの為、韓国で武道具製造が始まり、現在は中国が主な生産拠点となっております。

そんな中で、日本製の日本人の為の防具が求められております。

つまり、高く浄い精神性と技術に支えられた日本人の日本人の為の防具が世界の武道家に供給されることで、日本武道精神を体得したいと言うことです。又、武道家の動きに極限まで対応した機能性、運動性と耐久性が武道精神に沿ったものでなければなりません。

「デザインド by 鐵」の製造に携わる全ての従業員が、高い品性と技術を持った職人となることで、互いに助け合い、認め合い、「和」を以て研鑽し、より高い人間性を目指します。

武道に携わる人々が居る限り、日本武道精神への求道者が居る限り、弊社はその補助者となるべく永続性を目指し、「デザインド by 鐵」はさらなる躍進を続けてまいります。

七星の安全への取り組み

弊社では常に使いやすさと安全性を両輪に道具作りに取り組んでおります。

布団の衝撃緩衝能力について=安全への第1歩

剣道具は布団がとても重要な役割をもちます。

弊社製の剣道具布団については、（財）全日本剣道連盟公認の「竹刀及び剣道具の規格」に記載されている面の規格・小手の規格における布団の衝撃試験を実施し、全ての布団において、その衝撃緩衝能力の基準を満たすレベルにあることが確認されました。

柔軟性などの使いやすさはもとより、安全性においても安心できる製品と確信しております。

剣道具の安全性を高めることについて、新しい面の用心垂の開発

用心垂を超える「安心垂」

■頸部傷害の予防策
- 頸動脈などの頸部側部の保護
  ▷直接剣先が咽喉部に入らない形状の工夫
- 打突動作の際の迎え突き等への対応
  ▷垂自体の構造の工夫（二重構造）

■剣道の動作に対する対応策
- 振り上げ振り下ろし動作の妨げにならないこと
  ▷サイズとミシンの縫い目の工夫
- 顎側部等からの剣先の貫入の対応
  ▷サイズとミシンの縫い目の工夫
- 打突動作で顎が上がることに伴う危険への対応
  ▷垂自体の構造の工夫（二重構造）

■従来の剣道具の改良として位置付け
（スタイルは変えない）
- 用具を増やさない
- 見た目の考慮

現状の剣道具そのもののスタイル・見た目を大きくかえないように用心垂の構造および形状を工夫して、現状より高い安全性と動作に妨げにならないような機能性を持たせることを勘案しました。

顎が上がると2枚目（二重構造）の垂が可動します。

「面」の解説と着装

「布団の長さ」

富士山の裾野のような形となり、布団の長さは肩より少し外に出るくらいが適切です。

大きく振りかぶった時、面布団が両腕の内側に納まり、邪魔にならず、手を下ろしたら元の形に戻ります。

「内輪」

内輪は、頭の大きさ・物見の高さによってサイズが変わります。
面のパーツの中でも一番大切で、一番セットがむずかしい部分です。

「ミシン刺」

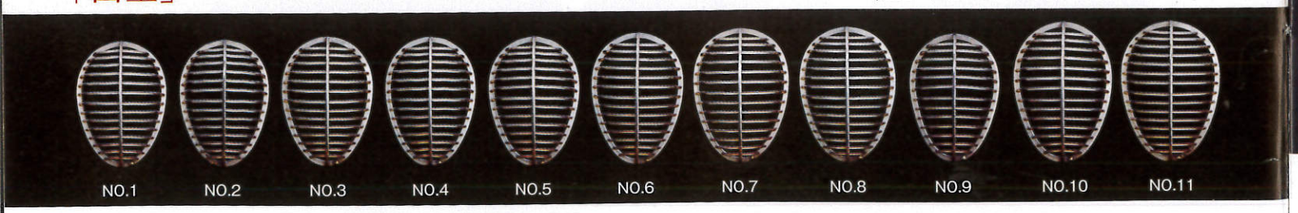
手刺の刺し方をミシンに応用しました。オール綿の芯材を使い柔軟性もあり、顔のあたりがソフトです。汗の吸収もよく乾きも早いです。

「手刺」

真綿を使っての手刺の内輪。使うごとに使う人の顔の形にそってきて、フィット感は最高です。

「面金」

（物見の位置：上から6本目と7本目の間）



少年用から大人用（特大）まで11種類の面金をご用意しています。NO.1、2（大人用小型）、NO.3～5（大人用普）、NO.6（大人用中型）、NO.7（大人用大型）、NO.8（大人用15本大型）、NO.9（少年用）、NO.10（大人用普通、物見7本と8本の間）、NO.11（大人用15本特大、物見7本と8本の間）と、それぞれ大きさと物見の位置が違います。よって、面の仕上がりの姿が同じになります。

写真でもお分かりのように、**面紐が二等辺三角形**となるような結び方が理想です。そして、物見（③：面金の6・7本目の間）の真後ろで結ぶようにします。

①の赤いラインを描くことにより、横からの姿がきれいに見えます。また、**②の青いライン**のように、面金から自然に連なるきれいな面布団のラインを、どのサイズの面金でも仕立てることができます。

剣道の立姿でもっとも重要なのが面の装着です。そのためには各々に合った面布団の長さ、巾が重要になります。そしてサイズが顔の大きさに合っていることが大切です。面金と顔が平行に入っていないと顎が浮いて見えたり、引きすぎて見えたりします。また、面が顔に合ってないと必要以上に面紐をきつく結んでしまい、面が固定される反面、長時間の装着による首から肩にかけての疲労が、想像以上に大きくなります。最適なサイズの面を使ってから、疲労度の軽減を実感したという感想を数多くいただいております。

面の装着

面の装着は先ず顎から入れて、次に額を入れるようにします。

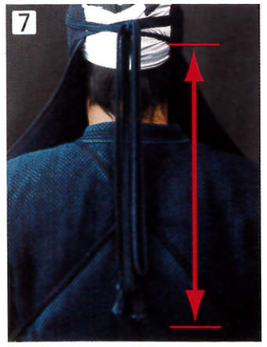
目の真後ろに面紐をしっかり固定してください。

紐が緩まないように注意して、紐を前に引いてきます。

紐を片手でしっかり押さえ、もう片手で紐を引いてください。

両手でしっかり紐を締め、その時少し顎を引きながら額を前方に押し出すと、顔が面金と平行に入ります。

[2]で固定した位置で、紐がほどけないように結んでください。



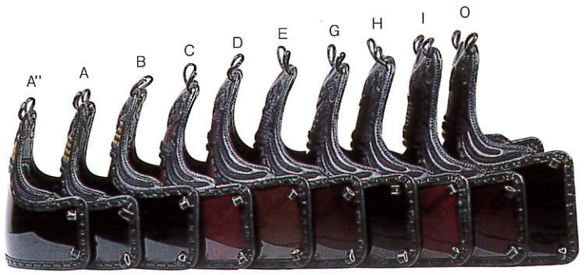
面紐の長さは、結び目から**40cm以内**になるようにしてください。女性の場合は**30～35cm**位が体型的に良いバランスでしょう。

面を外す時は[1]と逆方向に、額の方から外してください。

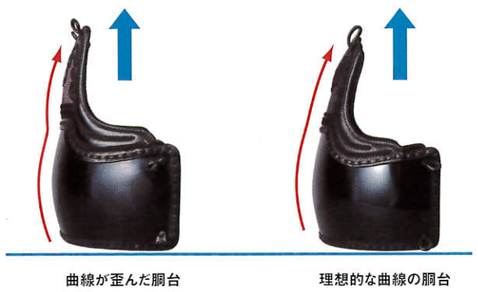
「胴」の解説と着装

「胴」は「胸」と「胴台」の大きく2つのパーツから出来ています。胸の幅や高さ、胴台の高さや幅などを組み合わせることですべての方の体型に合った胴を製作いたします。左の写真のように胴台と胸が一体化することが大切です。

体型による幅・高さや胴台ごとに異なる足の部分のカーブに対応した胸型を各種ご用意しています。胸が浮く、つかえる、左右にずれる、重く感じる、腕が伸ばせない、顎と隙間ができる、といった問題を解決します。

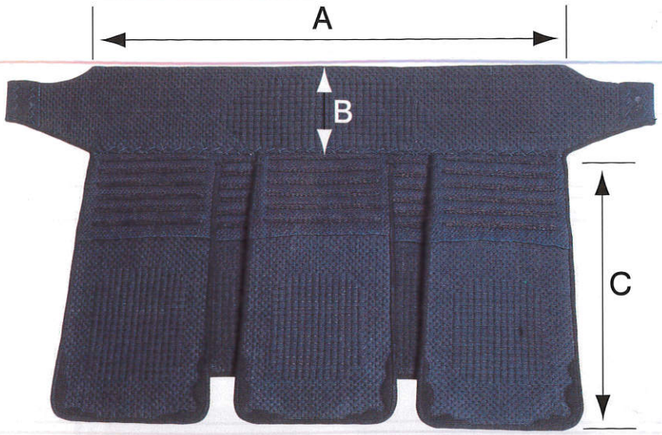


A"・A・B(子供用)、C・D・E(女性用)、G・H・I・O(男性用)。
胴の大きさは身長、体重、腰骨の位置などによって異なります。



上の写真でお分かりのように、胸と胴台のバランスが悪い胴は、垂直に持ち上げた時、前方に動いてしまいます。この胴を装着すると胴全体の重さを感じてしまいます。また、**胸の巾が広い**と「脇を締める」という基本動作が出来ず、竹刀を大きく真っすぐに振り上げることが出来ません。特に女性の場合、男性よりも腰の位置が高いので、胴を選ぶ時は高さと巾を慎重に検討されることをお勧めします。

「垂」の解説と着装



「垂」は「大垂3枚、小垂2枚、帯部、紐」のパーツから出来てます。ウェストはもちろん身長など各自の身体の全体像から大垂、小垂、帯、紐の幅・高さ・長さや垂の重ね具合等の寸法・比率を考える必要があります。また、腰を圧迫しすぎる堅い垂は障害を起こすもととなるので、帯の柔軟性は必要不可欠です。体型に合った、使いやすく、身体にやさしい「垂」をぜひお考え下さい。

身長、体重、腰回り等によってA、B、Cのサイズを決めます。

剣道の立姿は、試合・審査に関わらず横から見られることが多いです。その際、胴の側面のヘリと垂の大垂の側面が一致していない場合、どうしても装着のバランスが悪く見えます。胴が体全体を隠してしまう、垂が腰の後ろまで来てしまうようでは、見た目のバランスもさることながら、道具としての機能性を損ねてしまいます。

但し、子供から、中高生、女性の方の場合、体形的に細身の場合は、この限りではありませんので、職人の方にご相談ください。

全ての剣士に贈る　理想の手の内

DESIGNED BY TETSU

ナナホシ N1-型 甲手（少年用）

8mmミシン総織刺
・手の内白鹿皮
・2段飾付

1. 自然に握れます。
（剣道具師と剣道家のアイデアが詰まっています）
2. 安全性に優れています。
（素材選びからこだわっています）
3. 清潔性に優れています。
（繰り返しのクリーニングに耐えられます）
4. 使いやすさに優れています。
（甲手頭、手首の柔らかさ）

■N1-型サイズ表　単位：cm

	SS	S	M	L
長	13.5	14.5	15.5	16.5
巾	19.0	20.0	21.0	22.0

※寸法の測り方は10ページをご覧ください。

【修理について】弊社オリジナルの「型」ですので、弊社での修理をお勧め致します。

全ての剣士に贈る　理想の手の内

ナナホシ N4-型

8mmミシン刺

クラリーノ製　手の内　茶クラリーノ
（個人でも洗濯可能です）

総織刺製　手の内　ミクロパンチ
（個人でも洗濯可能です）

総織刺製　手の内　白鹿革

総織刺製　手の内　茶鹿革

ナナホシ N4-型 甲手

特徴
1. 8mmミシン刺、2段飾付。
2. 布団がやわらかく打突の吸収がよい。
3. 使えば使うほど、修理を重ねるごとに進化する。
4. 自分の手にあった甲手が、一生使えます。
5. どのような希望にも、職人が全てお応えます。

総紺革製　手の内　茶鹿革

紺奴　手の内　白鹿革

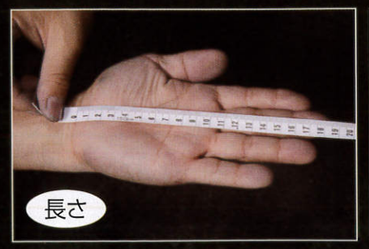
■N4型　甲手　サイズ表

単位：cm

長さ ＼ 巾	23	24	25	26	27
17.5	S				
18.5		MY	M		
19.5				L	
20.5					LL

※上記のサイズにない場合は、別注にて型起し製作しますので、ご相談ください。

■甲手サイズの測り方



手のひらに近い一番目だつ筋から
中指の先端まで。

親指の付け根、小指の付け根の一番膨らんでいるところの一周。
（注）手の平側のへこみの部分にメジャーを指で押さえて余りがないように測ってください。

■修理について／弊社オリジナル「型」ですので、
お手数ですが弊社での修理をおすすめします。

8mmミシン刺紺革 特製

手刺に匹敵する柔軟な布団。

面紐の滑りが良くなり、耐久性が
上がります。

オーダーメイド（納期4〜5ヶ月）／曙光選択可能）

8mmミシン刺紺革 特製セット

面　面金SPジュラ・布団紺革張・3飾入・内輪ミシン
胴　50本樹脂胴・革紐とじ仕立・上製胸
甲手　総紺革仕立・2段飾入・手の内茶鹿革（サイズM）
垂　4段3飾入・帯雲付・紺革ヘリ仕立・額有

8mmミシン刺織刺地 上製

手刺に匹敵する柔軟な布団。

面紐の滑りが良くなり、耐久性が
上がります。

オーダーメイド（納期4〜5ヶ月）／曙光選択可能）

8mmミシン刺織刺地 上製セット

面　面金ジュラ・布団紺革ヘリ仕立・内輪ミシン・杉飾入
胴　大人用ファイバー胴・革紐とじ仕立・上製胸
甲手　総織刺仕立・2段飾入・手の内茶鹿革（サイズM）
垂　4段杉飾入・紺革ヘリ仕立・額有

8mmミシン刺織刺地 並製

手刺に匹敵する柔軟な布団。

面紐の滑りが良くなり、耐久性が上がります。

オーダーメイド（納期2ヶ月）／曙光は濃紺の刺とXからお選びください）

8mmミシン刺織刺地 並製セット

面　面金ジュラ・布団紺革ヘリ仕立・内輪ミシン
胴　大人用ファイバー胴・エスロンとじ仕立・上製胸
甲手　総織刺仕立・2段飾入・手の内白鹿革（サイズM）
垂　オリジナル4段モール・紺革ヘリ仕立・額有

10mmミシン刺 中高生用

10mm刺は打突の吸収性に優れ、乾きが早い。

面紐の滑りが良くなり、耐久性が上がります。

面　面金14本ジュラ・布団合皮ヘリ仕立・内輪ミシン
胴　大人用ヤマト胴・エスロンとじ仕立
甲手　総合皮仕立・手の内茶合皮（サイズM）
垂　オリジナル2段モール・合皮ヘリ仕立（A・B）
　　オリジナル3段モール・合皮ヘリ仕立（C・D・E）

曙光は、クローム製とクラリーノ製からお選びください。

■ 面サイズ

頭サイズ　物見　　単位：cm

種＼サイズ	サイズ	物見
A	65	10.5
B	66～67	11.0
C	68～69	11.5
D	70～71	12.0

■ 胴サイズ

適合身長　　単位：cm

C	女性基準	150～155
D		155～160
E		160～165
G	男性基準	160～165
H		165～170
I		170以上

■ 垂サイズ

適合身長　　単位：cm

A	150～155
B	155～160
C	160～165
D	165～170
E	170以上
A・B	2段モール
C・D・E	3段モール

上記サイズ以外の方はオーダーにて製作致します（納期1ヶ月）

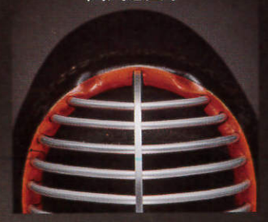
10mmミシン刺 高学年用

10mm刺は打突の吸収性に優れ、乾きが早い!

面金ジュラルミン13本　頭サイズ 62~63cm　物見 10cm

面　面金13本ジュラ・布団合皮ヘリ仕立・内輪ミシン
胴　少年用ヤマト胴・エスロンとじ仕立
甲手　総合皮仕立・手の内白合皮
垂　布団合皮ヘリ仕立

面渕を凹す



面紐の滑りが良くなり、耐久性が上がります。

10mmミシン刺 低学年用

10mm刺は打突の吸収性に優れ、乾きが早い!

面金ジュラルミン12本　頭サイズ 60~61cm　物見 9.5cm

面　面金12本ジュラ・布団合皮ヘリ仕立・内輪ミシン
胴　幼年用ヤマト胴・エスロンとじ仕立
甲手　総合皮仕立・手の内白合皮
垂　布団合皮仕立

面渕を凹す

面紐の滑りが良くなり、耐久性が上がります。

ファイバー胴変り塗(手塗)

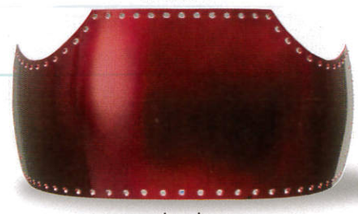
黒呂色塗

大

溜塗

大

玉虫塗



小・大

暁雲塗

小・大

金梨地塗

小・大

紅梨地塗

小・大

ヤマト変り塗胴台

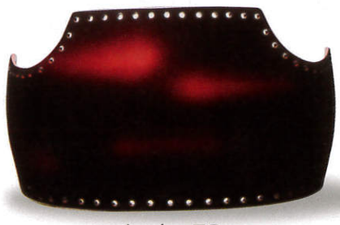
溜塗

小・大　50・60・64

紅溜塗

小・大　50

暁雲塗



小・大　50

緑梨地塗

小・大　50

濃藍塗

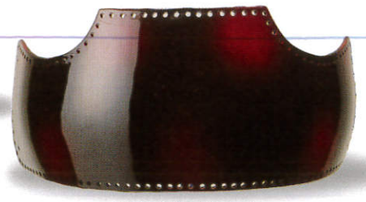
小・大　50・60・64

黒石目塗

大　50・60・64

F50・F60本型特殊塗胴台

呂色


暁雲（ぎょううん）

玉虫（たまむし）

溜（ため）

F50本型黒（女子用）

F60本型胴台（黒）

使用・取扱い上の注意

剣道用品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。

この剣道用品は全日本剣道連盟規格を中心に各種安全規格に基づいて製作された物です。剣道は本来一番安全性が高いといわれる競技ですが、正しい使用方法にて剣道用品をご使用いただければ、より安全に剣道を行うことができます。製品のご使用にあたっては、下記使用・取扱いの注意書きを良くご理解して頂き、事故等の原因につながる無理な使用や改造は絶対になさらないで下さい。なお、ご不明な点があればどのようなことでも、当社へご相談下さい。

面（めん）

剣道の稽古をする時、頭部に着装し、竹刀での打突から頭や顔を保護する為の道具です。剣道以外にはご使用にならないで下さい。

★次の状態になったら絶対に使用しないで当社にお持ち下さい、危険な状態です。
- ○面金の物見〔目の位置で上から6本目と7本目の間が広くなっているところ〕は15ミリ以下ですが、それ以上に広がってしまった場合、竹刀が入ってしまう可能性が生じて大変危険です。
- ○面金の縦・横のそれぞれが曲がった場合も上記の理由で危険です。
- ○目に見えない部分で面金が破損している場合があります。金槌等で軽くたたくと異音がしてわかります。
- ○顎がぐらつき出したもの。布団と顎の接合部分が破損したり、顎そのものが、折れてしまったりした場合等に考えられます。
- ○用心垂がはずれたり、はずれそうになった場合。
- ○天地〔面を着けた時おでこと顎を固定するもの〕がはずれそうになっているもの。
- ○面のサイズが合っていないもの、物見の位置が合っていないもの。
- ○布団の天の部分と面金との間の生革が擦り切れてしまったもの。

胴（どう）

剣道の稽古をする時、胸・腹部に着装し、竹刀での打突から胸や腹を保護する為の道具です。剣道以外にはご使用にならないで下さい。

★次の状態になったら、使用を見合わせて、なるべく早く当社へお持ち下さい。
- ○胴台や竹や合成胴台が破損したもの。自分や相手にも危険性があります。
- ○胸部の破損、折れ・変形等が生じたもの。
- ○胸部の乳革、胴台部の引き革の劣化、破損、欠落〔のおそれのある〕したもの。
- ○胸と胴台を綴じている紐〔革〕が破損したり、劣化したもの。また胴台の横・下部を綴じている紐〔革〕についても同じです。
- ○胴紐の切れたもの、その恐れのあるもの。〔紐はしっかりと結ぶこと〕
- ○竹刀以外のもので打突をしないで下さい。また、胴に過負担〔重いものを乗せる、人が乗る等〕をかけ、劣化・破損をさせないで下さい。

甲手（こて）

剣道の稽古をする時、両手に着装し、打ち込み時・体当たりの時・相手からの打突を受ける時等に腕・手首・甲部を保護する為の道具です。剣道以外にはご使用にならないで下さい。

★次の状態になったら絶対に使用しないで当社にお持ち下さい、危険な状態です。
- ○手の内の革が破れ、指先が出てしまうようになったもの。
- ○甲部〔甲手の頭部分〕に詰めてある鹿毛や綿等がなくなり、不足してきたもの。
- ○紐が切れてしまったもの。

★次の状態になったら、使用を見合わせて、なるべく早く当社へお持ち下さい。
- ○手の内の革が破損した場合。
- ○甲部の革・生地の破損したもの。〔鹿毛や綿等の欠落となります〕
- ○サイズが合わないもの。

垂（たれ）

剣道の稽古をする時、胴の内側の腰部で着装し、竹刀での打突から腰部周辺を保護するための道具です。剣道以外にはご使用にならないで下さい。

★次の状態になったら使用を見合わせて当社へお持ち下さい。
- ○紐と帯の継ぎ目の破損が生じた時。
- ○紐が擦り切れてきた時。
- ○大垂、小垂が帯からはずれそうになった時。
- ○垂と帯を止めてある部分が破損してきた時。

アフターケア

お預かり後、約3週間でお手元へ。――― 大切な道具、末永くお使いください。

道具はいずれ傷みます。愛着のある道具を長く使い続けるには適切なお手入れと補修が大切です。道具の傷み具合を丁寧に調べて適切な修理を施します。「不純物を取り除く」という意味の「精練」の名の通り、生地に染み付いた汗や汚れをきれいに洗い流す作業から始まり、新品製作さながらの工程で大事な道具を生き返らせます。製造・販売を手がけるからこそ可能な補修と仕上がりに、きっとご満足いただけるはずです。

- ●修理の全工程手作業を一つひとつ丁寧に確認しながら、迅速かつ確実に仕上げます。
- ●甲手は適切な修理を重ねることで、握りやすさ、使いやすさが増します。
- ●今まで上手く握れなかった他の武道具店の甲手も、手の内革張り替え修理によってしっかり握れる甲手へと変化します。
- ●甲手の握りやすさや柔軟性、自然な装着感などを徹底的に見極めながら防具使用者の立場で修理します。

甲手

クリーニング後の甲手

たたき

内張り

■手の内革張り替え

●クリーニング（洗濯）
甲手の隅々まで丁寧に擦り洗いや揉み洗いをし、洗濯機で汗などの汚れや臭いを取り除いて清潔な状態にします。甲手の補修については汗や汚れで硬くなった手の内革を伸ばしながら水洗いし、本来の革の大きさに戻します。

●たたき
クリーニング・乾燥の後、甲手を木槌でたたいて揉みほぐし、甲手全体の鹿毛や革を柔らかくします。

●ほぐし
（新しい手の内革を縫い付けるために古い手の内の革とへりを外す。）

●内張り
甲手の手の甲が当たる部分に布を張り付ける。内張り布を張り付けることによって弱くなった生地を補強し、縮まりやすい指先部分などを広げて新品時のような甲手本来の形に戻します。甲手に手を通した際、手のひらから指先まで余裕ある装着感があります。

●手の内革付け
現在ご使用になっている甲手と同様のサイズの型を使って手の内を交換しますので、今まで以上に手に馴染んだ握りやすい甲手へと変わります。

●へりとり・まつり
（へり革を縫い付け、そのへり革をまつり糸でまつる。）細かく丁寧なまつり縫いの作業により、へりと手の内革をしっかり結び合わせることで激しい使用でも糸がほつれにくくなります。

●仕上げ
まつりまでの修理完了後、甲手に木型を当てたたき、全体的に柔らかい状態にします。この作業でお客様の手に合った柔らかく握りやすい甲手に仕上げます。稽古や試合でも自由に柔らかく手首を動かすことが出来ます。

■補修
甲手の修理箇所の材質に適した素材を使い、甲手の柔軟性を保ちながら握りやすさなどの機能性を考えた修理を行います。ひどく破損した甲手も細部にわたって完全補修いたします。

●手の内革の穴補修
甲手の手の内革の破損（穴開き、破れ等）を修理します。

●甲補修
甲手の甲部の破損（織刺生地の擦れ、紺革甲手の穴開き等）を補修します。

●手首、ケラ補修
ひどく破損した手首、ケラ等も完全に修理し、安全に使用できる状態に戻します。

●毛詰め
甲手の薄くなった各箇所に加工した鹿毛を程よく入れ、安全で使いやすい状態に戻します。

垂

飾り糸の入れ直し

■補修
- ●クリーニング
- ●飾り糸の破損（切れた飾り糸の入れ直し）
- ●へり補修（へりの擦り切れ等の補修）
- ●擦れ補修

面

■補修
- ●クリーニング
- ●面布団生地の擦り切れ
- ●へり補修（へりの擦り切れ等の補修）
- ●面布団の長さ調節

面布団の長さは攻め・守りの動作に大きく影響します。